

# 私の将来の仕事

油谷中学校三年 山田 智江美



ボランティア、それは自分がやろうと思えばできることです。例えば空き缶やゴミを拾うこと、重い荷物を持っている人を手伝ってあげること、寂しそうにしている人に声をかけてあげることなど……。こういう小さなことが誰でもできるという町は、とても住みやすいのではないのでしょうか。便利さよりは優しい心を持った人がたくさんいる方がとても住みやすい町に

なるのではないのでしょうか。

油谷中学校では、毎年大浜清掃を行っています。大浜には夏になるとたくさんの方が泳ぎにいられます。町づくりにつながるのでたくさんの方がこられるのはうれしいです。しかし、掃除をしながらゴミの量が毎年増加していることに気付きました。例えば、洗剤の容器、スリッパ、発泡スチロールの皿といったごく普通の物なども落ちていました。中には、韓国など他の国の文字で書かれた洗剤の容器等もまざっていました。もしかしたら、私たちが知らない間に、日本から他の国へゴミが流れているかもしれません。自分が出したゴミは、一人一人が心がけ処理する事が大切です。しかし、自分の出したゴミではないのだから、私の責任ではないかと思っていたら、いつまでたってもきれいになりません。もしかしたら私たちも、知らない間に動物などに迷惑をかけているかもしれません。とても暑い中、掃除を終えて海岸を見渡すと、来た時よりすごくきれいになっていました。私の心の中は、うれしさでいっぱいになりました。そして、大事なことをやりとげたような気がしました。

実は、私が将来やりたいと思っているのは福祉関係の仕事です。そのきっかけとなったのは、養寿苑へのワークキャンプです。ボランティア活動の一つとして、希望者がつられたのです。私は、その時あまりボランティアには興味がありませんでしたが、思い切って申し込んでみました。

夏休みも終わりに近づくと、養寿苑を訪問しました。その日は、養寿苑で行っているティサービスの日でした。前々から知りあいのおばあさんに聞いていたので、健康検査などのつまらないようなものかと思っていたけれど実際はかなり違っていました。お年寄りの方々は、楽しそうに歌を歌ったり風船バレーをされておられました。私たちも一緒に遊んだりしました。その間、笑い声が絶えませんでした。その後、養寿苑に住んでおられる方々の介護などもしました。食事もスプーンで一さじずつ食べさせてあげたり、シーツの換え方も教わって替えてあげたりしました。するとお年寄りの方々は、何度も「ありがとう。」と言って下

さいました。よく考えて見るとさっきお年寄りの方々が楽しそうに遊んでおられたのも、養寿苑で働いておられる寮母さんたちのおかげではないでしょうか。寮母さんたちが毎日工夫しながらお年寄りが楽しく過ごせるようなことや健康づくりに役立つことをしておられるからこそあんなに明るいのだと思いました。人のためになるこのような福祉関係の仕事をしたい、私は強く思うようになりました。

ボランティアの中でも私はお年寄りの介護をいちばんしたいと思っています。日本では、今お年寄りの人数が増えてきています。三十年後は、三人に一人が六十才以上になると聞きました。油谷町でも例外ではありません。私の家の周りにもお年寄りの方だけで住んでおられる家もあります。

幸い、私の家には祖母がいます。私が生まれた時から一緒に住んでいます。時々、畑仕事を手伝ったり、話をしたりしています。早く亡くなった祖父のことも、祖母から聞きました。あいつちを打ちながら聞いてあげると、祖父の若い頃の話などを、生き生きと話してくれました。また、小学生の頃は、祖母について畑に行き、鍬の使い方や野菜の植え方を手とり足とり教えてくれました。それだけではありません。靴のそろえ方や、食事の時の行儀、部屋の片付けなど、礼儀に一番厳しいのも祖母です。時には口うるさいなと思うこともありますが、でも、祖母が教えてくれることがとても大事だということは私にもわかっていきます。祖母がいてくれたおかげで、私はたくさんのお年寄りのことを身に付けることができました。お年寄りの接し方も少しわかってきたつもりです。こうした体験を生かし、人のため、お年寄りのために役立つことがしたいです。

高齢化が進む油谷町で、お年寄りが長生きでき、楽しんで暮らせるようにすることは、実は誰にとっても住みやすい町になることではないのでしょうか。美しい自然がいっぱいで、本当に住みよい町にするには、一人一人が自分のことばかり考えず、人のことも考える心(ボランティアの心)を持つことが大切だと思います。私も、自分の夢を追いかけて、町づくりに少しでも役立ちたいと思います。

## シリーズ ふるさとへの想い ②

